

2・5～6 医労連シンポ・国会行動に254人が参加



2015.2.5 医労連シンポジウム 於:衆議院第一議員会館大会議室

オーストラリアのたたかいに学んで

5日はまず全医労中央委員会でも来賓挨拶をされた日本共産党倉林明子参議院議員をはじめ、多数の議員や秘書が駆けつけ、挨拶メッセージが紹介されたあと、基調報告、特別報告「オーストラリア視察報告」を受けました。

オーストラリア視察報告では、看護師不足や病棟閉鎖の状態から、ANMF（オーストラリア看護師助産師連合）の運動により、看護師対患者の「比率法」（基本20床に看護師5人）看護師1人に対し患者は4人を勝ち取り継続していることが報告され、政府へのはたらきかけの重要性が強調されました。

続いてシンポジウムでは、佐々木司氏（労働科学研究所慢性疲労研究センター長）「看護師の長時間夜勤リスク対策こそJOB（職務）の平等化にあり」、伊藤圭一氏（全労連雇用・労働法制局長）「労働時間法制の抜本改正で安心して働き続けられる職場の実現を」、森田しのぶ氏（医労連副委員長・全日赤）「人間らしく誇りをもって、働き続けられる職場をめざして」と、それぞれのテーマでパネリストから問題提起、報告がされ、フロア発言でさらに深め合いました。

フロア発言では、全医労から九州地方協代表の参加者、鳥越磨都香さん（大村支部）が「全医労では全国で退勤時間調査を実施し、増員交渉で残業を認めさせた。支部でも不払い残業を一掃する団体交渉を行い、増員闘争に結びつけている」と報告しました。



大村支部・鳥越さん

2月5～6日に医労連の夜勤改善・大幅増員をめざすシンポジウムと国会議員要請行動があり、全体で254人が参加。全医労からは地方協代表含め14名が参加しました。

最後に医労連三浦書記長が「オーストラリアのたたかいに学び、夜勤改善・大幅増員の世論を本気で作っていこう」「そのためにも増員署名を50万目標に早急にとりくもう」「労働者のいのちの守り手として、職場要求書提出を」「過労死につながる労働時間の実態を放置せず運動をすすめよう」と力強くまとめを行いました。

白衣で現場の声を届ける

翌6日は、白衣に着替え、情勢報告を受けたあと、グループにわかれて地元国会議員に「安心・安全の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める要請」を行いました。



2015.2.6 国会議員要請行動集会



白衣で議員要請

「慢性的な人手不足・欠員で看護師は疲弊している。このままでは日本の医療は崩壊する」「子育て支援制度ができてでも人手不足のため中高年看護師に負担がかかっている」「入職して8ヵ月の看護師が過労自死する事態も起こっている」「介護職員の人手不足も

深刻。介護報酬が引き下げられる一方で軍事費が5兆円規模などおかしい」等々、秘書対応ではありましたが、しっかり現場の声を届けました。

引き続き翌7日まで社会保障運動推進全国学習交流集会が開かれ、柴田英昭氏（立教大学教授）の記念講演、本部・佐藤均組織強化委員から特別報告「医療介護総合法と国立病院機構」も行われました。